

児童養護施設や里親をめぐる法的諸問題学習会

児童養護施設や里親など社会的養護に関する法律を学ぶ学習会を、弁護士の森本志磨子さんを講師に、3月23日に箕面市立萱野中央人権文化センターで開催しました。参加者は28人。里親で育つ子どもの通称(里親の名前)と本名(戸籍名)の使用について、就職等の身元保証の問題、携帯電話や賃貸住宅、奨学金、ローンなどの契約に関する問題などの質問が出され、それにも答えながら進められました。

【参加者の感想】

- 現場ではどうしても法律とリンクさせる部分が少ないが子どもの権利をしっかりと考える上で法律をしっておくことも大切なのだと知った。
- 難しいイメージがあるがとても分かりやすくて良かった。
- 子どもを中心に考えた法律の見方が参考になった。



えせ同和行為等根絶大阪連絡会議第5回総会

5月13日、「えせ同和行為等根絶大阪連絡会議」総会が開催され、約150人が参加しました。

内海事務局次長の主催者代表挨拶、(財)大阪府暴力追放推進センターの高群専務理事による来賓挨拶を受け、谷元事務局次長から2010年度活動報告、赤井事務局長から2011年度の活動方針が提案されました。

「えせ同和行為」は2010年で13件報告があり、同じ団体による高額な図書の購入の強要が特徴的で、要求に応じたケースも1件ありました。また実際に売りつけられた図書5冊も集約されています。

方針では、①相談・集約体制、②加盟団体での独自活動、③研修・啓発活動、④運営体制の強化が出されました。また、府暴力追放推進センター作成のDVD「NAV15PartⅡ負けへんで！」を上映し、えせ同和行為を始めとする暴力団の不当要求への対応について学習がおこなわれ、野村前事務局次長の閉会挨拶で閉会しました。なお、野村会長のもと新役員が承認されました。



よりそいネットおおさか第3回(2011年度)総会

6月7日に、「よりそいネットおおさか(福祉の支援を必要とする矯正施設等を退所した人々の自立支援おおさかネットワーク)」総会が開催され、約70人が参加しました。



第1部では、梶本代表(大阪府社会福祉協議会会長)の主催者挨拶、大阪府人権室の西川課長、大阪保護観察所の倉谷総括から来賓挨拶を受けた後、2010年度活動報告、2011年度活動方針が承認されました。また、(社福)大阪府総合福祉協会の北場好信さんが事務局長に就任しました。

大阪府地域生活定着支援センターと連携して取り組んできた相談・支援は2年間で約180ケース。その中には、必要な支援を十分に見極めないまま福祉制度につないでいると思われるケースも少なくなく、生活歴の影響で行動や思考のパターンに社会とのズレが生じて触法行為に至りやすいケースも多く、より適切な制度利用につなげるためのアセスメント(見極め)の大切さを再認識しました。また、制度利用と並行して、本人の内面にある課題の発見と対応の必要性も見えてきました。

第2部として、「よりそいネットおおさか」事務局の論文「過渡期を迎える刑余者支援の課題と展望」が、同心会大阪市社会福祉研究「奨励賞」を受賞し、その報告がされました。また、大阪保護観察所より、更生保護施設の現状等のDVDの上映、自立準備ホーム等の事業の紹介がされました。

人権のコミュニティづくり交流会

コミュニティづくり協働事業の「人権のコミュニティづくり交流会」を、3月5日にドーンセンターで、20名の参加がありました。

交流会では、6つの助成事業の活動が発表されました。

①第14回「平和と人権」畜魂祭・どうろうまつり(「平和と人権」畜魂祭・どうろうまつり実行委員会)／②知的障がいをもつ女性の自立支援～はじめの一歩プロジェクト～(財団法人大阪YWCA)／③セクシャル・マイノリティの労働環境を考えるコミュニティ事業(QWRC)／④新しく開設された市民交流センターで多世代間の交流を(西成子ども応援サークル・スプッタ)／⑤鳴滝地域から発信するまちづくり(NPO法人ワンピース)／⑥地域多文化交流事業(部落解放同盟道祖本支部)

推進委員の高田一宏さん、加藤めぐみさん、奥田均さんは、①地域の団体や機関のネットワーク、②被差別者のエンパワメント、③地域や日常での協働の追求をと語りました。

